

Vorab-Event zum 160. Jubiläum deutsch-japanischer Beziehungen

# Deutsches Filmfestival in Osaka

日時: 2020年11月28日 (土) 10:00~19:30

場所: OIT梅田タワー 常翔ホール



## 日独交流160周年イベント ドイツ映画祭

2021年、ドイツと日本の中で修好通商条約が結ばれてからちょうど160年目を迎えます。これを記念して「日独交流160周年」を祝う様々なイベントが1年を通して日本とドイツで行われます。ドイツ総領事館ではそれに先立ち日独交流160周年イベント「大阪ドイツ映画祭2020」を開催します。

音声: ドイツ語 (日本語字幕つき)

申し込み: 下記URLまたはQRコードより、上映作品毎に申込み要 (先着順)

[www.japan.diplo.de/event20201128](http://www.japan.diplo.de/event20201128)

対象: 中学生以上

入場無料

入場は上映開始20分前より。上映開始後の入場禁止

主催: 大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館



感染予防と流行拡大防止のため以下の対策を実施いたしますのでご協力ください。

ご来場の際、会場内では必ずマスクを着用下さい。ご着用いただけない場合、映画のご鑑賞をお断りいたします。入場時の検温と手指の消毒にご協力をお願いします。発熱のある方、体調不良の方のご入場はお断りいたします。



🎬 10:00 - 12:00 (開場 9:30~)

## 嘘つきヤコブ (Jakob der Lügner)

1974年、東ドイツ/ 監督 フランク・バイヤー/ 100 min.

舞台は第二次世界大戦末期、東欧のユダヤ人ゲットー。ある日、帰宅途中のヤコブは「外出禁止」に違反するとがめられ、ゲシュタポ本部に出頭させられる。そこで偶然聴いたラジオでロシア軍が近づいているのを知る。幸運にも処罰は免れ、命からがら家に戻ったヤコブ。生きる希望を失いかけていた仲間を勇気付けようとニュースを伝えるが信じてもらえず、とっさに禁制の「ラジオを持っている」と嘘をついてしまう。噂は瞬く間にゲットー中に拡がり、住民たちに希望が芽生え、自殺者が減っていく。皆を失望させないようヤコブは嘘をつき続けるが…。

東ドイツで製作された映画の中で、アカデミー賞外国語映画賞にノミネートされた唯一の作品。

(協力: DEFA財団/ドイツキネマテーク)



🎬 12:30 - 14:30 (開場 12:10~)

## 僕たちは希望という名の列車に乗った (Das schweigende Klassenzimmer)

2017年 / 監督 ラース・クラウメ/ 111 min.

ベルリンの壁建設前夜の1956年、東ドイツでエリート高校に通うテオとクルトは、西ベルリンで映画館に忍び込み、ハンガリーの民衆蜂起を伝えるニュースに接する。2人は犠牲者への純粋な哀悼の心から級友達に呼びかけて2分間の黙祷をするが、この行為が社会主義体制への反逆行為とみなされる。当局は生徒たちに一週間以内に首謀者を明かさなければ全員退学に処すと宣告。大切な仲間を密告してエリートの階段を上るのか、信念を貫いて大学進学を諦め、労働者として生きるのか。過酷な現実さらされた彼らの、人生の全てをかけた決断とは? 実話をもとに映画化された感動の青春ストーリー。



🎬 15:00 - 17:00 (開場 14:40~)

## 女は二度決断する (Aus dem Nichts)

2017年 / 監督 ファティ・アキン/ 106 min.

トルコ系移民の夫ヌーリと6歳の息子ロッコとハンブルクで幸せに暮らすドイツ人カティア。ある日、カティアがロッコをヌーリの事務所に託して出かけた後、そのすぐそばで爆発が起き、カティアは愛する夫と息子を同時に失う。警察はトルコ系同士の抗争だとみて捜査、夫にも原因があったのではないかと疑いの目を向けるが、次第に若いネオナチのドイツ人夫婦が容疑者として浮かぶ。容疑者は逮捕され裁判が始まるが、被害者であるにもかかわらず、夫ヌーリの人種や前科をあげつらわれ、思うような結果が出ない。絶望の中、カティアが下す決断とは――

2017年カンヌ国際映画祭主演女優賞、2018年ゴールデングローブ外国語映画賞をはじめ、数々の賞を受賞。



🎬 17:30 - 19:30 (開場 17:10~)

## コッホ先生と僕らの革命 (Der ganz große Traum)

2011年 / 監督 セバスチャン・グロブラー/ 114 min.

19世紀末、帝国主義下のドイツで強烈な反英感情が高まる中、イギリス留学を終えたコッホはブラウンシュヴァイクにある母校のギムナジウムにドイツ初の英語教師として赴任した。英語に強い偏見を持ち学ぼうとしない生徒達に英語への興味を持たせるため、コッホは授業に当時まだドイツで知られていなかったサッカーを取り入れた。生徒は次第に心を開き、英語と共にフェアプレイやチームプレイの精神を身につける。しかしこの型破りなやり方は多くの敵を作ることになる。規律や慣習を重んじる教師や親や地元の名士たちがコッホを排除しようとするのに対して、生徒達は立ち上がった。ドイツにおいて「サッカーの父」と称されるコンラート・コッホを描いた感動の物語。

